

可児高通信

平成26年
3月号

可児高校生 可児市議会に意見提出

二月一〇日(月)に、地域課題解決キャリア教育として本校が進めてきた「縁リッチプロジェクト」のメンバーが、可児市議会議場で市長さんや市議会議員さんの前で、一年間の活動報告や意見書を提出し、受理されました。

「可児高校臨時会」と銘打たれた会議は、本当の市議会さながらに、川上議長さんが司会進行され、生徒たちも緊張して活動報告をしました。可児川の環境調査のお手伝いや防災クロスロードによる大人との話し合い、市役所職員による可児市の少子高齢問題などの講義と意見交換、地域医療の他職種間交流などの取り組みを報告しました。最後に「プロジェクトで若い世代が大人や地域課題に関わることの重要性を学んだ。大人の方から助言をもらって夢への道筋がはつきりし、貴重な経験になった。医療福祉や介護などについて大人と高校生が話し合える場を作って欲しい」と語り、意見書を提出しました。川上議長さんは、「市議会が責任を持つて市などと掛け合い、可児高生が要望する『場』を作りたい」と話してくださいました。この模様は、ケーブルテレビのフラッシュニュースでも放映されました。さらに三月には「生き生きマイタウン」でも取り上げられ、学校内に「カニダー」も現れて撮影が行われました。ご覧になった方もいらっしやるのではないのでしょうか。



可児高校は、来年度も地域課題解決学習を通して、地域との連携を強め、生徒の進路意識を高めて、将来地域に貢献する社会人を育てていきたいと考えています。

幽霊家族はあたたかい！ 芸術鑑賞会



二月一七日(月)に、可児市文化創造センターで恒例の芸術鑑賞会がありました。希望された保護者も観劇されました。今年は劇団うりんこによる「ダイアル アゴースト ～幽霊派遣会社～」で、人間と幽霊との共同生活の中から生まれた強い絆・愛情に感動する物語でした。舞台の世界に知らず知らずの間に引き込まれ、笑いや涙、はらはらどきどきと、刺激的な展開に時を忘れましました。最後はハッピーエンドで終わり清々しさに満たされました。「役者さんの喜怒哀楽や声、動きなどから迫力がひしひしと伝わってきて、終始引きつけられました。友人や家族の大切さを再認識しました」「叶うことならもう一度見て、ホノリリアが最初に持っていたユニオンジャックの意味を考えながら味わいたい」などの生徒の感想からも、とても充実した時間を持てたことが伺えました。来年は、「音楽鑑賞」の予定だということで今からとても楽しみです。

二月の無情の大雪

今年には雪が降らないかと思っておりましたが、思いもよらない大雪に二月は二回見舞われ、可児高校の行事が中止になりました。一つは、八日(土)の花フ

エスタ記念公園で予定されていた強歩大会です。この日の為に授業で持久走に励んできた生徒には残念な雪でした。もう一つは、一五日(土)の可児川清掃ボランティアです。来年は今年の分も頑張りたいと思っています。

さよなら、可児高校 卒業式



三月一日(土)、第三二回卒業証書授与式が行われ、三二期生三〇〇名が、巣立っていました。当日は、県会議員や中学校の先生、同窓会会長、PTA役員の方々もお祝いに来てくださり、祝電も多数いただきました。式は厳粛な雰囲気の中に進行し、卒業生のはつらつとした「はい」という返事が体育館に響きました。国家、校歌、



仰げば尊し、蛍の光も大きな声でしみじみと歌われました。送辞・答辞も生徒の素直な気持ちが伝わり、全てが感動的で素晴らしい卒業式でした。

しかし、卒業式後も、国公立前期試験の発表、中後期試験の受験とまだまだ試験は続き、制服姿で登校してくる生徒も多々あります。卒業式の喜びに浸ってばかりはいられません。人によって違いますが、全員が本当に「卒業」できるのは、三月末になります。

可児高校で三年間、学習や部活動、学校行事などに真剣に取り組んできた事は、これからの人生で必ず生きて来ます。自信と誇り、そして優しさと思いをやりをもって人生を切り開き、社会に貢献してくれることを期待しています。

「世界に羽ばたけ、可児高三二期生！」

可児高通信

平成26年
1・2月号

センター試験は可児高団体戦だ!

一月一八日(土)・一九日(日)に名城大学都市情報学部でセンター試験が実施され、三年生 二九八名が受験しました。センター試験は、可児高生三年間の集大成であるともいえる大切な試験です。この日に向けて、学校全体で、三年生を応援します。



一月一五日(水)には、生徒会による激励会がありました。生徒会長からの激励の後、有志による「磯野カツオ君、センター受験 注意事項」の寸劇やエールが送られました。また、三先生代表からはお礼と意気込みが語られました。一・二年生は、三年生の姿を見て、学習に対する思いを新たに自らの目標に向かって頑張ってくれると思います。

一月一七日(金)は、三年生の先生方からの激励会がありました。寸劇を交えた先生方のメッセージ。緊張をほぐして試験に向かい、実力を出し切ってほしいという先生たちの気持ちが伝わってきました。



一八日(土)当日は、体育祭の各団の応援団長が、リードして恒例の「頑張るぞコール」が行われました。みんなの思いのこもった声が名城大学に響き、互いに力づけられました。まさに可児高校では、センター試験は団体戦だという思いを新たに

しました。試験は昨年よりは生徒たちが解きやすい問題であったようで、試験を終えた生徒たちは落ち着いた表情で家路に向かい、二日目の試験に備えました。二日目も大した混乱もなく終わり、翌日から自己採点、その結果を受けての担任との懇談による最終志望校決定、そして今は、二月二五日(火)の二次試験に向けて最後の追い込みに入っています。毎日登校して頑張っている姿を見ると、生徒たちの三年間の努力の成果が実り、無事、志望校に合格してくれることを願ってやみません。

親子で大学を知ろう

十二月十六日(月)～二十日(金)は、本校では三者懇談会があり、担任の先生と生徒・生徒保護者が、学校・家庭生活や学習などについて懇談をします。この日の午後を使って、生徒の情報量が少ない近隣の国立大学や人気の私立大学から先生に来ていただいた大学の説明をしていただくという試みが行われました。国立大学では、岐阜大学地域科学部・富山大学・静岡文化芸術大学、私立大学では、中京大学・南山大学。希望された保護者や生徒が参加しました。遠方の大学は、オープンキャンパスに行くのも難しく、今回のような企画はありがたいと好評でした。来年度は、地方の国立大学の数を増やしていきたいと考えています。

第十一回 はつらつ講座 看護系小論文

国立大学の看護学部には入試で小論文を課す所が多くあります。そこで、一・二年生のうちに対策をしようということで講座が開かれました。一二月一三日・二〇日(金)の二回にわたり、看護希望者二四名が参加しました。一回目で書き方のコツを学び小論文に挑戦。二回目に先生の添削をもとに再度校正し完成させました。これを機に意識を高め、医

療関係の問題等について理解を深め、自分の意見を構築できるとよいと思います。

スキー研修で可児高生になる! 一年生

一月二八日(火)～三一日(金)の三泊四日で、高山市の国立乗鞍青少年交流の家でスキー・スノーボード研修が行われました。交流の家に着後、それぞれに合わせた分けられたグループごとにインストラクターの指導のもと、研修が始まりました。初めてのスキーやスノーボードの生徒もいま



たが、皆滑られるようになり、達成感・充実感を得ることができました。二日目は快晴で美しい北アルプスや白山連峰の山並を楽しみながら滑ることができました。三日目は、天気が一変して、吹雪。視界がきかない中でも生徒たちは、必死でスキー・スノーボードの技術の習得に励みました。可児高生の辛抱強さを感じました。三日目の夜は、キャンドルサービスがあり、各クラスは出し物のスタンプの練習を前二日の夜を利用して取り組みました。当日は、どのクラスも、ダンス・寸劇・コントなどで盛り上げてくれました。暗闇を照らすキャンドルの明かりも幻想的で素晴らしいものでした。生活面でも、学校生活と同じくはきはきとした挨拶、五分前集合の実践、と素晴らしく、他団体の模範となりました。この研修の目標であった、①友人・先生との絆の深化②スキー・スノーボードの知識・技術の向上③最後まで頑張りぬく体力と精神力の養成は、十分に達成できたと感じました。研修で、一回り大きく成長した可児高校一年生の今後が楽しみです。

可児高通信

平成25年
12月号

可児市長 富田成輝氏

生徒と語る

可児高校は、今年、市役所において、地域の抱える問題などについて学習することで、将来の進路を考え、地域に貢献できる生徒を育てることをめざしています。その集大成として、十一月十八日(月)富田可児市長にお忙しいなかご来校いただき、全校生徒に「可児市の課題とその対策」というテーマでお話しくださいました。「可児市で一番多い姓は？」などのクイズもあり、とてもフレンドリーな雰囲気の中で生徒に接してくださり、生徒も和やかにお話を聞きました。



「少子高齢社会」の問題を取り上げられ、可児市は全国平均よりは若い街ではあるが、地域によっては、高齢者が三〇%以上の所もあり、人口も減少していること、今後は若い人が住みたいと感じる街づくりをしていかねばならない、と話されました。そのため企業誘致や子育て支援などに力を注いでおり、可児高生にも将来、地域の力になって欲しいと訴えられました。その後、生徒の有志との懇談も行われ、熱く深い議論がなされました。市長さんを始め、お世話いただいた市職員の方々に深くお礼申し上げます。

第五・九・一〇回 はつらつ講座

はつらつ講座は年に一〇回計画され、今月が最後になりました。毎回多くの生徒が受講し、それぞれのキャリア学習に役立っています。

第五回の講座は、台風のために延期されていた「インターネットの怖さ」で高岡法科大学の高倉先生にお話いただきました。サイバー犯罪の特徴・対策などについてわかりやすくご説明いただき、巻き込まれないように注意を喚起されました。法学部についての話もあり、法学部に興味をもっている生徒にはとても参考になりました。第九回は一〇月三十一日(木)に名古屋大学の山田先生が「音や振動で発電しよう」というテーマで身近なところで使われる小さな発電についてお話くださいました。振動や音が材料を変形させ、圧電体により電気エネルギーに変換されるしくみを説明され、ブザーを用いた実験も体験させていただきました。骨も圧電体で、動いた時の振動を電気信号に変えているとい大変興味深いお話でした。生徒の感想に



「一瞬ではあったが指一本で電力を生み出したこと大変驚いた。」「僕もその研究に触れてみたいと思いました。」とあり、大変刺激を受けたことが伺われます。第一〇回は十一月七日(木)に名古屋学院大学の高木先生から「仕事をスムーズに進める方法」と題してお話を聞きました。仕事をスムーズに進めるには、第一印象・挨拶・会話が大切であるということをお話しくださいました。第一印象は会ってから六秒で決まること、笑顔・身だしなみの大切さ、携帯での会話より直接、人と会話することの必要性などを具体的にお話いただきました。これを機にこ

れからの生活を考え、将来に活かして欲しいと思います。

進路について学ぼう！

十一月二十二日(金)にこれから進路を明確化していく二年生を対象に進路別ガイダンスが開催されました。大学の先生をお招きして、工学部・医学部・薬学部・教育学部・外国語学部など併せて一四の学部学科の説明があり、生徒は、関心のある二学部を選択して説明を聞きました。短い時間でしたが、熱心に耳を傾けていました。これからは、大学や学部について調べて情報を入手し、具体的に自分の進路を決めていかねばなりません。そのきっかけとなればよいと思います。

可茂特別支援学校「にこりん祭」に参加



十一月二三日(土)に本校生徒会執行部一四名が、「にこりん祭」に参加しました。可児高校の文化発表会に可茂特別支援学校の生徒たちが参加して盛り上げてくれたお礼に、昨年に続いて友情参加しました。割り箸ゴム鉄砲・紙相撲・蛙びよん・風船お化けなど作って遊べるブースを設け、可茂特別支援学校の児童・生徒や地域の一般の子どもたちと交流しました。また、各展示発表も見学して意義深い一日を過ごすことができました。

特別棟のお色直し 完成

今年の四月から、特別棟屋上外壁改修工事と配管改修工事が行われていましたが、一月を以て全て終了。特別棟は新築のように綺麗になりました。工事中は近隣の皆様にもご迷惑をおかけしましたことをこの場を借りてお詫びいたします。

可児高通信

平成25年
11月号

第四～八回 はつらつ講座

一〇月は二回、はつらつ講座が開かれました。一回目は、八日(火)に岐阜大学の応用生物化学専攻の二名の大学院生が各自の研究テーマに沿ってお話くださいました。講座Aは、「私の進路選択」として、植物の様々な病気についてそのメカニズムや防ぎ方、講座Bは、「食物繊維に秘められたメッセージ」で、食物繊維が体内の酵素量を増加させる働きがあるという研究について、そして、それぞれの先生がどのように進路を決められたのかというお話をしてくださいました。進路について考えている生徒にとって、とてもタイムリーなお話でした。第五回は、台風で延期。第六回は、一五日(火)に京都光華女子大学のライト先生が「留学について」を英語でお話してくださいました。生徒たちは一生懸命にネイティブの英語にくらいついていました。第七回は、二四日(木)に岐阜女子大学の土屋先生が「健康に美しくダイエット」として、バランス良く食べて痩せることと食べ過ぎないことが大切だとお話しくださいました。さすがに女子生徒が多く、真剣な眼差しで聞き入っていました。第八回は二九日(火)に岐阜大学の佐々木先生から「人間の意志通りに動かすロボット」として人間の脳波の電気信号をロボットに伝え、言葉を使わなくても膨大な電気信号の持つ意味を一つ一つ調べて一部実用化されている機能もあるとのこと、医療面など



でも注目されています。ロボットには関心の高い生徒も多く、将来この分野で活躍する人材が出てくれることを期待しています。

可児市役所・可児高校

連携講座

今年から可児高校では、一年生の有志を対象に「地域課題解決型キャリア教育」を試行的に始めました。これは、生徒が地域の抱える課題を知り、その解決方法を考える中で、自分の進路目標を具体化して意欲的に学習に向かい、将来的には直接的・間接的を問わず、地域に貢献する社会人に成長することが目的です。夏休みから始まりましたが、その一環として七日(月)に可児市の三名の職員の方に「可児市の高齢化問題」というテーマでお話いただきました。高齢化が可児市でも起きていることに生徒は自分たちにも関係がある大きな問題だと認識していました。又、二一日(月)には、「可児市の財政問題」として可児市役所財務課の四名の職員の方からお話がありました。可児市の財政状況は税収等が減少する中で経費削減に努めた結果、市債が減少しているとのことでした。企業立地も積極的にを行い、「若い世代が住みたいと感じる魅力あるまち」造りをめざしているそうです。生徒たちが将来への手がかりを少しでも掴んでくれればと思います。



十月十八日(金)に二年生が長芋の収穫をしました。グラウンドの東の狭い土地ですが、昨年三月に芋を植えました。みんな無心になってパイプの中を探しました。中には、パイプから逸れて成長した芋を一生懸命に掘っている生徒もいました。どの生

たくさん取れた!

収穫の秋

徒も収穫の喜びを体中で表現していました。今年は一五二・一kgと過去三年間で最も多く、とつた芋は生徒が家庭に持ち帰りました。

進路を考える秋 一・二年生保護者進路説明会



三年生は、センター試験の願書を提出し、ひたすら受験勉強に取り組む時季に入って来ました。一・二年生は各自の進路について真剣に考えねばなりません。そこで、この時期に一・二年生の進路説明会が毎年アーラで開催されます。一年生は「文系・理系の選択について」、二年生は「来年度の大学入試について」を中心に各学年から説明がありました。堅い話ばかりではなく、生徒の学校生活のスライドショー・寸劇などもあり、心を和ませていらつしやいました。平日の夜にも関わらず、いずれも九〇%近い出席率で保護者の方の関心の高さが伺われます。今後とも、生徒のために保護者の方との連携を密にして支援をしていきたいと思つていきます。

交通安全を考える秋

交通講話

日没が早まり、下校時の交通事故の心配が高まる季節になりました。一日(金)にはJAFの方に来てもらい交通安全に関するお話をいただきました。こっそり撮影された可児高生の下校風景も披露され、各自が自転車の安全運転について考える事ができました。自動車のミラー死角やピラー死角についても学び、自動車から見えないポイントがあるということを知りました。この後全校生徒が交通安全標語を考え、最優秀作品は、来年度の本校の交通安全標語として、正門付近に横断幕として掲示されることとなります。

可児高通信

平成25年10月号

可児高生の最も熱い日



九月四日(水)・五日(木)は可児高生の若いエネルギーが大爆発した日。文化発表会と体育大会でした。文化発表会の今年のテーマは『34可児高魂〜いつ楽しむの?今でしょ!〜』。オープニングは書道部のパフォーマンスから。文化系の部活動や委員会、有志の発表、昨年から友情参加してくださる可茂特別支援学校さんのコーナーなどがありました。体験型の出し物が多く、来場者も一緒に楽しむことができました。また、先生の宝物・趣味の展示もあり、意外な顔を見ることもできました。最後は、生徒会企画の「可児高クイズ」。クラス対抗で行われ、可児高にまつわる一五問題に盛り上がりました。

五日は、体育大会。前日の豪雨によるグラウンドコンディションと当日の天気心配されましたが、一時間遅れで決行。可児高生の熱気が雨雲を吹き飛ばし、進行とともに天気も回復。青空の下、はつらつとしたプレーが観衆を魅了しました。この日、体育大会にいらしてくださった方は七六〇名。改めて保護者をはじめとする可児高応援団の方々に感謝



申し上げます。体育大会のハイライトは、全員で軍団に分かれて踊る軍団ダンスと応援合戦。どの軍団も短期間でダンスを完成させ、団結力集中力の凄さを見せつけてくれました。応援合戦も各団の個性が発揮されており、気迫のある一糸乱れぬその動きには圧倒されました。軍団ダンスは南軍が、応援合戦は北軍が勝利を収め、総合優勝は南軍でした。勝利に関係なくどの団もよく頑張り素晴らしかったです。

また、体育大会の練習の騒音や当日の学校周辺の交通渋滞などで近隣の方々に迷惑をおかけしましたことを紙面をもってお詫び申し上げます。

はつらつ講座 「コンビニー」

今年度三回目の可児高はつらつ講座が九月一(木)に行われました。講師は岐阜経済大学の岩坂和幸先生で「コンビニ〜小売りのあり方をどのようににかえてきたのか コンビニビジネスの抱える問題とは〜」

というテーマでお話いただきました。約九〇名の生徒が受講し、コンビニと小売業との違い、コンビニのしくみ、コンビニの抱える問題などについて熱心に話を聞きました。最近、この地区に急増しているセブンイレブンの名前は操業日が一九四六年七月一日にちなんだものだということにも驚きました。身近なコンビニの学習をして、コンビニの見方がこれまでとは違ってくると思います。また、これを機に経営学の勉強を志す生徒もいることでしょう。

3年生 鮮やかに染まれ! 受験色に

文化発表会・体育大会も終わり、三年生は大学受験に本腰を入れる時期になりました。九月一九日(木)には、保護者進路説明会が可児市文化創造センターで行われ、九五%の保護者の方が参加してくださり大変感謝しております。



進路説明会では、センター試験の出願や大学入試について、そして生徒の学校での様子や家庭でのお子さんへの対応などについて、パワーポイントやスライドを使って、また、担任団による寸劇などによって説明がありました。厳しい話の中にも、リラックスできる部分もあり一時間四〇分があつという間に過ぎていきました。

これから三年生は、受験に向かって精神的にも不安定になります。今は、勉強をすることが目標を突破するための唯一絶対の方法。受験という大きな山を越えると、そこには素晴らしい景色と一段と逞しくなった生徒諸君の姿があるはずですよ。